

は負けない明日へ

小宮の大久保さん方

飯舘村の形の 花壇が完成

東京電力福島第一原発事故に伴う避難指示が三十一日に解除される飯舘村小宮の大久保金二さん(左)の方の畑に二十日、村の形をした花壇が完成した。花で復興の象徴を作ろうと活動する大久保さんの情熱を東京大の大学院生らが後押しした。



大久保さん(前列左から2人目)方で花壇を整備した東京大大学院の学生ら。前列左端が佐藤さん

大久保さんは平成二十二年から自宅周辺で花の植栽を始めた。原発事故で避難を強いられたが、花の名所を構えてお世話になった人に恩返ししよう、桜の植樹やミズバショウの管理などに取り組んできた。

大久保さんの思いを知った村出身の佐藤聡太さん(三)は東京大大学院農学生命科学研究科農学国際専攻の学生でつくるグループ「いいはな」が授業で花壇のデザインを提案した。大久保さんから「アイデアを実現してほしい」と頼まれ、昨年



飯舘村をかたどり、行政区ごとにバラの苗5本を植えた花壇

十二月に整備を始めた。これまで約四割の土地に石を並べて村の形の外枠を作り、花壇を見渡せる高台に続く階段を設けた。

最終作業となった十九、二十の両日は大学院生ら三十数人が参加した。二十行政区の境界線沿いに移植した四百本のスイセンと電飾を並べ、

各区に五本ずつバラの苗を植えた。

スイセンは四月中旬、バラは六月ごろに満開となる。佐藤さんは「村の中に広がった花が復興を連想させ、村民に元気を届けられたらうれしい」と期待した。大久保さんは「帰還した村民や多くの観光客に足を運んでほしい」と願いを込めた。



賞状を手にする伊藤さん(右)と佐々木教諭

全国きのこと料理コンクール 伊藤紫音さん(郡山女大)受賞

日本特用林産振興会会長賞、全国農業協同組合連合会会長賞を受けた。

全国大会は服部栄養専門学校で開かれ、全国十一県から高校生や大学生十三人が出場した。服部栄養専門学校長の服部幸

日本特用林産振興会会長賞
全国農業協同組合連合会会長賞

入賞した伊藤さんの「福島うまいもの丸ごときヘルシーパーク」



郡山女子大付属高食物科二年の伊藤紫音さん(二)は十四日に東京で開かれた第三十回きのこ料理コンクール全国大会で日本特用林産振興会会長賞、全国農業協同組合連合会会長賞を受けた。

全国大会は服部栄養専門学校で開かれ、全国十一県から高校生や大学生十三人が出場した。服部栄養専門学校長の服部幸

いわき市泉町で自動車整備会社を営んでいる。一般整備のほか、飯金蕎麦や中古車販売などをしている。誇りを感じている。東日本大震災と東京

いわき市泉町で自動車整備会社を営んでいる。一般整備のほか、飯金蕎麦や中古車販売などをしている。誇りを感じている。東日本大震災と東京